

令和 8 年度第 1 回都市計画審議会

1. 開催日時 令和 8 年 7 月 2 日（木曜日） 開会時間：午前 9 時 3 0 分
閉会時間：午前 1 1 時 0 0 分
2. 開催場所 可児市役所 5 階 全員協議会室
3. 出席委員 都市計画審議会 会長 伊藤 栄一
都市計画審議会 委員 川合 敏己
田上 元一
前川 一平
松尾 和樹
倉内 文孝
黒見 敏丈
所 充士
加藤 幸治
谷口 新二
橋本 加永子
菱川 幸夫
前川 真奈美
山口 峻
4. 事務局 市長 富田 成輝
建設部長 中井 克裕
都市計画課長 太田 武則
都市政策係長 木村 彰伯
都市計画課都市政策係 溝口 英人
都市計画課都市政策係 渡邊 綾乃
5. 議案 協議第 1 号 可児都市計画マスタープラン改定について

6. 会議内容 以下のとおり

	【都市計画審議会 開会】
事務局	開会 宣言
市長	開会あいさつ
事務局	本日の会議運営について説明し進行を会長へ引き継ぐ。
伊藤会長	会長 あいさつ 会議録署名：松尾和樹氏、加藤幸治氏に決定。
事務局	【協議第1号】資料1、2に基づき説明
伊藤会長	何かご質問等はないか。
田上委員	今回策定の都市計画マスタープランは、第二次可児市都市計画マスタープランを基本とする方向性について理解した。 名鉄広見線の2年半後の廃線を受け、フレキシブルに計画を変える必要があると考える。 ごみ処理施設は、方向性が固まってきていることを踏まえ、方向性等追記すべきである。 土地利用について、用途地域内の未利用地や都市的土地利用推進地の既存ストックの活用を図るとのことであるが、その実現に向けて、土地区画整理事業や地区計画等を含め、どのような方策を考えているのか。
事務局	名鉄広見線の廃線は名鉄の廃線意思が示された時点で決定する。廃線に対する市の方向性については、地域公共交通計画の中で示す。 次期の都市計画基礎調査も参考にしながら再度検討する。 ごみ処理施設は、同じ場所での存続を計画しているため、記載については検討する。 土地利用は、可児市が非線引きであるため、白地地域はまちづくり条例等でコントロールを行ってきた。白地地域への滲み出しについては、既存ストックを活用、人口増減の状況を見ながらインフラ等について、負の財産をつくらないうコントロールをしていく。

倉内委員	鉄道軸および公共交通の整備方針から、鉄道は軸として位置づけた上で、残りの公共交通は鉄道が使えない人への救援策として考えているといった記載に見える。都市計画としては、都市の中での移動軸を定義したうえで、バス等も含めた公共交通を入れていくといった方向性で議論する方がよいのではないかな。
事務局	可児市の合併等の背景を受け、まちが各地に点在した配置となっており、これまでは道路軸を中心の考え方を進めてきたが、これからはそれらを結ぶコミュニティバスなどの充実は大切である。
伊藤会長	車を使えない人が使うといった発想から、より市の移動軸として公共交通機関を明確に見つけた方がよいといった意見であったが、検討する必要があると考える。
黒見委員	可児市の特徴として、外国籍の方が多いが、全体構想には方針として反映されていない。可児市市政経営計画でも外国籍の方が多いといった記述があるが、市政に活かしている記載はない。都市計画の中でも特色であり課題であると認識しているため、ユニバーサルな都市づくりや多文化共生の都市づくりとして方針にて触れておく必要があると考える。 国の政策として「コンパクト・プラス・ネットワーク」が掲げられているが、コンパクト化する戦略が見えない。可児市は、非線引きであるため難しい側面もあるが、まちづくり条例や特定用途制限地域等の活用では対応できない部分もあると考えるため、どのようにコンパクト化していくかについては、検討いただきたい。その際に公共交通が重要になるため、「コンパクト・プラス・ネットワーク」を目指す場合は、地域公共交通計画で大胆な発想を盛り込まなければ厳しいと考える。都市計画の内容も踏まえ、公共交通をどうしていくかについて議論いただきたい。
事務局	外国籍の方は、同じ市民といったスタンスである。多文化共生は駅前への施設の配置、外国語表記等に力を入れている。都市計画マスタープランへの記載については検討する。 「コンパクト・プラス・ネットワーク」については、人口減少を迎える中、住居系の用途については減少を視野に、コンパクトにして

	いく必要がある。ネットワークについては、地域公共交通計画を策定中であることから並行して議論していく。
倉内委員	立地適正化計画の策定は検討しているか。
事務局	必要な計画であると認識はしている。策定しなければいけないときはくると認識しており、必要に応じて都市計画マスタープランの改定を行う。
倉内委員	策定しなければいけないと気付いたときには遅いと思う。そのため、戦略的に取り組み、良好な住宅地を守ることが立地適正化計画の趣旨であるため検討いただきたい。
川合委員	都市機能集積エリアについて、可児駅の東側は土地区画整理事業にて整備済みである一方、西側には農地が残っている状態である。西側について考えがあればお示しいただきたい。
事務局	市道の幅員も狭く、建物を建てることができないのが現状であったが、数年前に歩道付きの生活道路（117 号線）といった道路を入れたことによりアクセス性は向上していると認識している。今後は駅への需要が増加した場合はさらなる整備が必要である。
前川委員	8 歳の子どもがいる母親として、まちの中に安心安全に送り出せない場面がある。子どもたちが未来のまちをつくるという意味では、外に出る、様々な教育を受けることによって人を高めていくと、街自体が人を高めていくような街づくりを望む。
事務局	子育ての安心安全、成長の視点として、例えば公園が都市施設として挙げられる。公園の充実は、そのエリアに合った配置や管理が必要となるが、施設のあり方について記述を検討する。
谷口委員	空き家が増加していると感じる。空き家は景観や防犯上の問題もあるため、優先的に活用する必要があることから、都市計画の中で検討いただきたい。
事務局	市として空き地空き家バンクの活用や不動産業者との連携を進め

	ているが、空き家が増加しているのが現状である。個人の財産であるため、難しい側面もあるが、政策として検討する。
菱川委員	今渡地区の国道 2 4 8 号バイパスの道路工事について進捗状況を教えていただきたい。
事務局	国道 248 号バイパスの住吉南交差点付近のことでしょうか、可茂土木事務所が管轄としている場所である。渋滞対策として 4 車線化を毎年要望しており、市としても県をバックアップしながら事業を進めたい。
所委員	議論の場所は、国道 21 号である。国の管理であるため、県としても国に働きかけていきたい。
松尾委員	公園・緑地の整備方針として、新たにふれあいパーク・緑の丘について再整備を検討する内容の記述が追加されており、市が業務を予定し、検討が進んでいる。策定完了時の令和 9 年 3 月には再整備の検討への進捗がみられると思うが、都市計画マスタープランへの反映について考えを伺いたい。
事務局	策定完了時の令和 9 年 3 月時点では、検討段階であり、明言することが難しい。
松尾委員	現在は改正に向けた検討段階であり方向性は未確定であるが、令和 9 年度の予算要求を見据えると一定の制度設計が必要になる。そのため、今後の制度改正の見通しと予算編成の整合性について確認したいといった趣旨である。
伊藤会長	趣旨に沿って整合するような形で記載することでいかがか。
事務局	令和 9 年度の工事に予算が必要であるため、検討の中で必要となれば予算の方もお願いすることになる。
前川委員	8 ページの都市づくりの目標について、「住みごこち一番・可児 ～すこやかに、にぎやかに、おだやかに暮らせるまち～」といった「にぎやかに」を掲げる中で、移住定住の観点はあるものの、観光等で

	人に来てもらおうといった視点がないのでは。
事務局	地域別構想を作成する上で観光について加筆する。
加藤委員	可児市は丘陵地に住宅地があるため、車での生活となる。数年後空き家を活用する場合、他市と比較して不便であることから、バス等の公共交通を検討していただきたい。
事務局	東鉄バスの路線バス、さつきバス、電話で予約バスを維持していく。一方、新しいシステムや技術も含めて検討していく。
田上委員	公園・緑地の整備方針に記載のある可児市緑の基本計画は目標年次を迎えていると思うが、「可児市緑の基本計画」に基づき、といった記載がある。
事務局	緑の基本計画は目標年次を迎えていることは認識しており、必要に応じて新たに策定することを考えている。
橋本委員	育った子どもが可児市に残ってくれないと感じている。子どもたちに残ってもらうためには、働く場所や通勤のしやすさが必要となるため、公共交通が重要であるとする。 また、県外の人と話す中で、可児市の他市町への心理的距離は遠くないが、市外の人には可児市へ心理的距離を感じているため、それを縮めてほしい。
事務局	都市計画としては、働く場所や住む場所として土地を提供できるか土地利用の観点から用意していくべき。
山口委員	課題に対して、守りの姿勢かつ無難に対応している印象を受けた。攻めるべきところは攻める必要があるのではないか。外国人とうまく共生しているといった見せ方もできると考える。将来に向けて何かあるとよいと考える。
伊藤会長	可児市市政経営計画をはじめとする上位計画も含めて市全体で十分に議論を進める必要がある。そのうえで、上位計画の実現を支える都市計画として何ができるのかを整理し、具体的な成果につなげ

	られるような計画となるよう検討してほしい。
伊藤会長	近年生物多様性の視点が重視されている。自然環境の方針の中で、人間の視点に立った方針が多いため、自然との共生の視点も踏まえ、多様性を意識した考え方を盛り込んでいただきたい。
事務局	検討する。
伊藤会長	本日の議題は以上となる。進行を事務局へお返しする。
事務局	次回の開催については、１０～１２月ごろを考えている。
中井建設部長	閉会に際しあいさつ
	【都市計画審議会閉会 午前１１時００分】